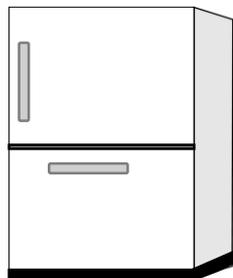


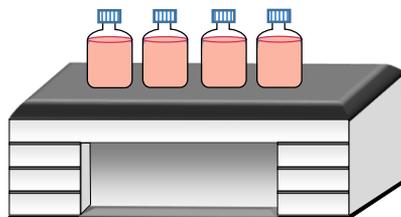
FBSの解凍方法

実験スケジュールにあわせて解凍方法をお選び下さい。



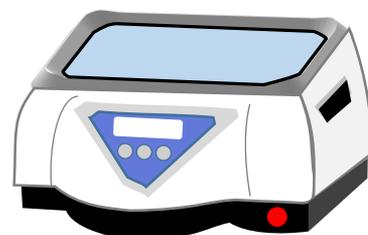
冷蔵庫(2~6°C)で
一晩かけて解凍¹⁾

or



室温で解凍¹⁾

or



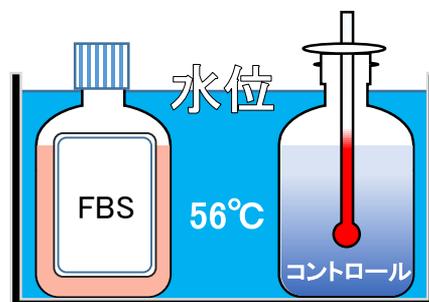
ウォーターバス
(~37°C)で解凍^{1), 2)}

- 1) 凍結融解の繰り返しは品質の低下を招くことがありますので、解凍後はすぐにご使用頂くか、必要量(例: 50 ml)を分注して冷凍(-70または-20°C)で保管して下さい。また、必要に応じて非働化を行って下さい。
- 2) 完全に溶解するまで、転倒混和などで何度か攪拌して下さい。

FBSの非働化方法

※非働化処理は必須ではありません。ご利用の細胞に応じてご検討下さい。

1. 解凍したFBSボトルを転倒混和で攪拌する。
2. コントロール用ボトルを用意する。
コントロール用ボトルは非働化時の温度のモニタリングに使用するため、FBSボトルと同じ材質(例: PETG)のボトルを用意し、FBSと同量の水を入れて下さい。水の温度は非働化を開始する際のFBSと揃えて下さい。
3. ウォーターバスの温度が56°C、水位がボトル内の液面よりも十分高いことを確認し、各ボトルを浸す。
※非働化中にウォーターバスの水が蒸発し、水位が下がらないように注意する。
4. コントロール用ボトル内に、温度計/熱電温度計をセットする。
※温度計はボトルの底に触れないように注意する。
5. ボトル内FBSの温度が均一になるよう、5分ごとに攪拌する。
6. 56°Cに達してから、30分間維持(非働化処理)する。
その間も5分ごとに攪拌する。
7. 56°Cで30分間の処理が終了後、速やかに冷却する。



※重りなどを使用しウォーターバスの中で
ボトルが転倒しないようにご注意下さい。

技術に関する お問い合わせ フナコシ株式会社 テクニカルサポート(試薬担当)
Tel. 03-5684-1620 Fax 03-5684-1775 e-mail: reagent@funakoshi.co.jp